



センター試験出願 受験近づく

10月1日、センター試験の出願を終えた。10月12日17時現在の出願者数が53万7008人との発表があった。

3年生は、10月11日は休日返上で模擬試験を受験するなど、勉強に専念している。模擬試験とは別に、特定大学のプレテストも受験している。センター試験まで残り11週。各クラスにはカウントダウンカレンダーが掲げられ、雰囲気を高めている。一日一日を有意義に過ごし、着実に準備を進めてほしい。

9歳～11歳はゴールデンエイジとよばれる。神経系が発達するこの時期は、スポーツなどにおいて技術力が大きく伸びる。現役の受験生にも同様の時期がある。10月中旬～12月中旬の約2ヶ月間である。なぜこの時期に学力が伸びるのか。それは、こつこつと積み上げられた断片的な知識が体系的な知識に変化し、問題を解く能力が高まるからだと考えられる。また、授業が受験に向けた演習へと切り替わっていくこの時期は、分からないことが具体化してくる。解決すべきことの見通しもよくなり、さらに学ぶ意欲が湧くのも理由の一つであろう。

受験は団体戦である。クラスに目の色を変えて学習する人が増えれば、クラスの雰囲気が変わり、クラス全体の更なる学力向上が見込める。今こそゴールデン「タイム」である。個人で、集団で、大いに学力を伸ばそう。

文理選択 — 1年生 —

学年PTA資料でも示したが、改めて確認しよう。

<文系コース>

資料や情報を収集し、自分の言葉で表現する力が要求される。国内外の文献を読みこなす国語力・語学力だけでなく、専門分野の知識を深め、社会の動きに敏感になることが要求される。また、統計等を用いる経済学・心理学等は勿論のこと、他の学問も論理的に考えていくため、数学的な思考も重要になってくる。

<理系コース>

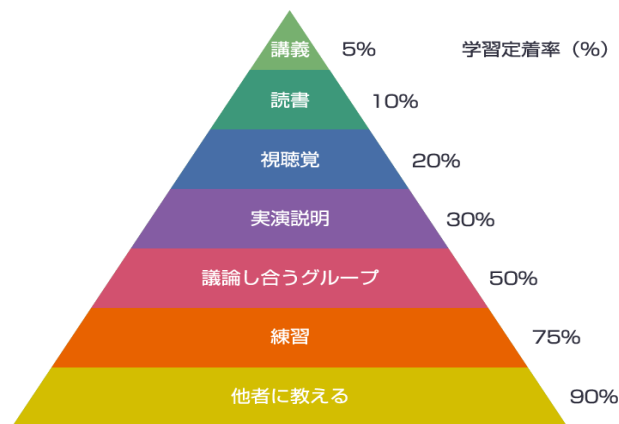
問題に対して、仮説を立て検証する力が要求される。自然科学の事象を理解するための理科的な知識、実験データを正確に把握・分析するための数学力が求められる。また、論文やレポートを書くための表現力、文献を読みこなすための国語力・語学力も求められる。

志望大学選択 — 2年生 —

中央高校生として1年半を過ごし、何度も模試を受け、自分の得手不得手は全ての生徒が自覚できているはずである。ぜひとも今年の内志望大学をいくつか絞込み、受験科目と配点を確認しよう。「数学が苦手だから、数学を使わないところ(配点が低いところ)を探す」のは良い選択とは言えない。まだ1年以上ある。どの分野から克服していくのか。苦手分野を、どこで補うのか。苦手克服のスタートは早い方がいい。今年中に「自分でできることは何か」に気づき、実行に移すためにも、志望大学選択に積極的になろう。

教えるということ

ラーニングピラミッド



【出典: <https://fumakilla.jp/foryourlife/140/>】

上記の表は、勉強の定着率を示したものだ。「議論」以下の学習法の効率が良いことが分かる。ただし、注意点がある。「確かな知識」を前提としていることだ。また、常に「他者に教える」わけにはいかない。そこで今回は「セルフティーチング」の例を紹介する。復習方法を見直してほしい。スペースの都合上、詳細は進路指導室便り11月号で取り上げることにする。

- ①計算問題のポイントを「自分に説明する」(数学・理科)
- ②読解問題の解答根拠を「自分に説明する」(英語・国語)
- ③用語の定義を「自分に説明する」(社会)

【参考: <http://www.ring.brigh10.jp/column/column-8755/>】

【1 学年部より】

鳥居 次郎

鹿児島中央高校に入学して、早くも半年が経ちました。そして、いよいよ文系・理系を決めなければならない大事な時期に差し掛かってきました。

文系であれ、理系であれ、これから相当な努力を重ねていかなければならないのは皆さんも分かっているはずですが。その一歩を踏み出すために、今回は登山家の栗城史多氏の言葉を紹介します。

『私は山登りを通して、苦しみには3つの特徴があることに気づきました。1つは、「苦しみと闘おうとすればするほど、その苦しみは大きくなっていく」。もう1つは、「苦しみから逃げて、どこまでも追ってくる」ということです。

人間の身体器官の中で、酸素の使用量が一番多いのが脳だといわれています。そのため、苦しい時に焦ったり、熱（いき）り立ったりすると、脳がどんどん酸素を消費してしまいます。

7500メートル以上の世界では、少ない酸素をいかに無駄なく取り入れるかが大切なので、体力的に、精神的に本当に苦しい時に、あえてそこで「ありがとう」と言いながら登るんです。

そうやって苦しみを受け入れると、不思議と心が落ち着いてきて、無駄な酸素を使わずに山を登ることができるんです。

そして特徴の3つ目は、「苦しみは必ず喜びに変わる」ということ。例えば、高尾山のような低い山は簡単に登れてしまうので、登頂してもあまり感動は沸いてきません。しかし、8000メートル峰を登頂した時は、それまでの苦しみが大い分、得られる達成感も半端じゃない。苦しみの分だけ、喜びがある。だから、苦しみは決して悪いものじゃないと考えています。

信条としてきたことはいろいろとありますが、まず「一歩を踏み出す」こと。そして「諦めない」ということが、私の生きる姿勢かもしれません。山登りでは1歩を踏み出さないと頂上にはいけません。

登山に限らず、地上のいろいろなチャレンジにおいても、「できる」「できない」と考える前に、まずはやってみることが大切だと思うんです。

私がエベレストを登頂できずに下山して帰ってくると、周りからは「失敗した」って言われるんです。でもそれはちょっと違います。成功の反対は失敗ではなく、本当の失敗とは「何もしないこと」です。

私は山登りを通して、挑戦し続けていく先に必ずや登頂や成功があるのだと確信しています。だからこそ、諦めないことの大切さを伝えていきたいと思っています。』

“終わりなき頂上への挑戦”より

『プロフェッショナルへの道』致知出版社



先輩！どんな事を考えて文系・理系を選択したんですか？教えてください！



どちらかと言うと、文系の方が成績もよかったけど、医療関係へ進みたかったので理系を選択したよ。



自分の受けようと思っている学部受験科目をまず調べて、それをみて決めたよ。



歴史の勉強が好きだったからだよ。でもその後理系の学部に行きたくなっちゃってちょっと後悔しました。

夢は見るもの、それともかなえるものでしょうか。あなたの将来の夢は何ですか。

思い続けていれば、いつか きっと かなう。と、乙女チックに憧れているその君。いつか、なんてのほほんと構えていては、「いつか」は永遠に「いつか」のままですよ。「いつか」は具体的に1年と70日余り先に確実にやって来る「センター試験」。このセンター試験で結果を出すことが夢を夢のまま終わらせるか、現実にはかなえる将来へとつなげるかの分岐点であることは、まず間違いないでしょう。道はいろいろありますから、1回のセンター試験で人生全てが決まるわけではありませんし、センター試験を受けない人もいますね。そういう人も、早晚、自分の将来を賭けて何らかの試験を受けますから、それぞれ自分の「その日」に置き換えて読んでください。

さて、夢を実現させる人は、二年生のこの時期をどのように過ごすでしょうか。どんな山でも眺めているだけでは近づくこともできません。どんな高い山でも一步一步足を進めていけば必ず頂上に立ちます。夢を実現させるためには、「いつまでに」「何を」「どのように」準備するか、自分で目標を決めて行動することです。目標はなるべく具体的に上げると行動しやすくなります。

「敵を知り己を知らば百戦危ふからず」 まず受験したい大学について情報を集めます。偏差値と知名度だけで決めていませんか。どんな研究をしているか、強い分野は何か、教授陣の専門は。自分の実現させたい将来へつながるか。そして、センター試験でどのくらいの得点が必要か、足りは実施するか、二次試験の科目は、センター試験と二次試験の比重は、前期はどうか、後期ではどうか、そもそも前期と後期の違いって何、等々。大学受験は自分が行きたい大学を選んでいくつもりですが、実際は、大学が入学させたい学生を選ぶのです。受かるための試験ではなくて、落とすための試験です。大学が要求するレベルを君たちはクリアしなければなりません。そのために大学から必要とされるには自分はどうすれば良いかをいろいろ調べて情報を集めるのです。

そして己を知ることです。大学が要求するレベルをクリアするには、自分は今どういう状態か。苦手は何か。得意は。苦手を克服し得意を伸ばすとはよく言われるけれど、じゃあ具体的にどんな勉強をすればいいのか。そうですね、自分の生活時間を見直すことから始めましょうか。自分が毎日の生活でしていること・しなければいけないことを具体的に書き出してみましよう。各教科から出される課題・授業で要求される予習復習・小テストの準備・提出物もありますね。部活動もあります。生きて行くにはご飯もお風呂も休養も欠かせません。ひとつ一つにどのくらい時間がかかりますか。24時間で収まりますか。では、優先順位をつけてみましょう。ここでCパスの出番です。時間が足りないうちでも、けっこう無駄に時間を使っていますか。きちんと記録すると自分の傾向がみえてきます。対策を立てる目安になります。たいせつなのは自分に今必要なことを自覚し、その優先順位を間違えないことです。

できないことをできるようにするには繰り返し自分でやるしかありません。地味なようでも山は一步一步自分の足で登るのです。やればやっただけのことが身について自分の力になります。簡単に手に入れたものは手放すのも簡単です。お金で手に入れたものはお金で動いていきます。けれども汗かきベソかき苦勞して身につけたことは、他の人には奪えない自分の力になります。頭で覚えたことは忘れても、身体で覚えたことは忘れたようでも必要なときには自然と身体が動いて、動きにつれて思い出して来ます。公式でも例文でも漢字の書き取りでも、自分ができなかった問題こそ自分の力になる問題です。繰り返し演習して見ただけで考えるより先に手が動くくらい書いて勉強しましょう。答えは書いて仕上げます。見てわかったのに書けなかった…とか、書く時間が無かった…という人は書く練習が足りなかったのです。やったことはできます。自分がどれくらいの事をやってきたかが受験本番での自分を支えます。優先順位を間違えないように、二年生でやるべきことは二年生の内にしっかり身につけていきましょう。三年生では三年生のやるべき事があります。

そして夢を実現させるために大切なこと。保護者の方とよくよく相談して、自分のしたいことをわかっていただくこと。君のことを一番心配して味方になり、支えてくださっている身内の方の理解と後押しは君の大きな力になります。折から進路希望調査の期間中ですね。よく相談して決めてください。

夢はかなえるもの。あなたの夢をぜひかなえてください。

センター試験まで80日！

～ いかにしてマーク型試験の得点力を身につけるか ～

第1週の「第2回実力考査」、第2週の「進研記述模試」、第3週の「全統記述模試」、第4週の「特定大プレテスト」と毎週のように模試が実施されました。11月上旬の特定大プレテストを残している人を除き、大部分の人たちにとっては記述型の模擬試験はほぼ終了ということになります。11月中に結果が出そろい、成績はセンター試験とのDK判定に用いられることとなります。判定のみに一喜一憂することなく、自分自身の足りない部分を認識し、弱点部の復習を徹底しておくことが重要になります。本番までにやれることはたくさんあります。まだまだ伸びます。しっかり前を向こう。

それぞれの志望校のセンター試験と2次試験の配点によって、今後の学習の在り方は変わってきますが、今後の模擬試験はセンター型のマーク模試がメインになっていきます。今回は残り3ヶ月を切った今、再度「センター試験」型の勉強方法と注意点について考えてみたいと思います。「頑張っているのに結果が出ない」という人、要チェックです。

（1）センター過去問を解こう ～ 常に本番を想定しながら、緊張感を持って ～

順調に勉強が進んでいたら、各教科の分野別の学習はほぼ終わってきているはず。次のステップとして考えられるのは「実戦型」の勉強。「センター試験過去問」や、「過年度の模擬試験の過去問」にあたるということ。

- ① 「問題の解き方や考え方のプロセスが身についているか」を確認 ⇒ 過去問が形を微妙に変えて再度使用される可能性もある。過去問演習は非常に重要。
- ② 「時間配分の体験」 ⇒ 100日を切った段階ではそろそろスピード感を持って問題に当たることも必要になってくる。自分なりの時間配分を決め、それに沿って解くことが大切。

（2）なぜ間違えたのかを分析しよう ～ 得点が伸びない原因をしっかりと把握する ～

過去問がだいたい終わったら、いよいよ実戦問題集に移る。週末など、まとまった時間を確保できるときに、センター試験を想定しながら問題を解いてみる。そして解き終わったら自己採点をし、「間違えた問題」をやり直す。ここでもう一つ大切なこと…「『なぜ間違えたのか』を自分なりに分析する」こと。

- ① 単純な知識・思考力不足（＝学力面）
 - ⇒ 得点できていない分野を特定して徹底的に復習。残念ながら、この部分が多い人もいるかもしれない。明らかな知識不足の可能性もある。必要以上に落ち込まず、その分野の学習を確実に進める。
- ② 時間配分を間違えて手が付けられなかった（＝戦略面）
 - ⇒ 時間配分を間違えて解答できなかった場合は、「捨て問」という考え方もある。もちろん全ての問題が解けるほうがよいが、わざと時間を使わせるトラップ的なものも試験では存在する。場合によっては「捨てる勇気」を持つことも必要。「絶対に解けそうな問題」→「解けなくてはならない問題」→「捨て問」の順で問題を分類したうえで解答すれば基本的に時間配分で失敗することは減るはず。
- ③ ケアレスミス（＝演習量面）
 - ⇒ 精神面の影響もありそうだが、入試に限っていうと「問題演習不足」が原因の場合が圧倒的に多い。「場数を踏む」という言葉があるが、多くの問題にあたりながら慣れてくるとこういったミスは減るはず。あと3ヶ月弱でできるだけ場数を踏んで（＝演習量を増やして）慣れていくしかない。

（3）しっかり復習 ～ 一度間違えた問題は二度と間違えない、焦らず1つ1つを確実に ～

最後のポイントは「復習」。本当に復習ができているか？「復習したつもりだけど、できていなかった」なんてことは、これからの勉強ではタブー。問題を解いた後、何を復習しているか？例えば、「自信を持って解答し正解できた問題は○」、「自信がなく解答したが正解できた問題は△」、「不正解だった問題は×」としたとき、×の問題は誰もが復習するが、注目すべきは「△」の部分！見逃してしまいがちだが、ひよっとするとここが大きな得点源になるかもしれない。曖昧な部分をつぶしていく意識を常に持ち続けること。

そして最後のポイントは「使う教材を絞る」ことです。我流の勉強で、教材をコロコロ変えて、どれも中途半端のままなんてことはないか？きちんと使うと決めたものを完璧になるまで何周もすることも重要です。